



1987-9

No. 228

【表紙】

染付柘榴文壺

近 藤 悠 三

1957年作

・解説は30ページ

題字デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

もくじ

特 集：映像文化(映画)

日本映画の現実と未来	熊井 啓	4
国際映画祭と日本映画	田山力哉	6
フィルムセンターの現状と将来について	丸尾 定	10

ぶんか プンカ

ヨーロッパを旅して(1) —英国の芸術・文化支援体制—	大崎 仁	12
--------------------------------	------	----

都道府県のページ

我が県の文化行政⑥ 文化の香り高い地域文化の創造	群馬 県	15
特色ある博物館紹介② 生きた民俗資料館	三州足助屋敷	18
都道府県月間行事予定 9月		20

文化行政質問箱⑧

文化財保護2 サーベルの登録はできるか?	21
----------------------	----

文化庁だより

報 告／中国帰国者に対する日本語指導者研修会及び日本語指導研究協議会の開催	22
文化庁ニュース	
・昭和62年度芸術祭国際公演・第11回日本民謡まつり	23
アジア・太平洋うたとおどりの祭典	
・昭和62年度芸術祭国際公演	23
タイ古典舞踊劇 「マノラ」鑑賞のタベ	
・第二回国民文化祭・熊本の概要	24
展覧会紹介	
絵画1977-1987／イギリスのカリカチュア	27
若林 奮 展／日本の甲冑	28
能・狂言装束／日本の水墨画	29

・文化庁行事報告及び予定	30
・国立劇場ニュース	31

フィルムセンターの現状と将来について



東京国立近代美術館
フィルムセンター 主幹

丸尾 定

フィルムセンターの実績と現状

昭和四十四年に東京国立近代美術館の美術部門が、竹橋に建設された新しい建物に移ったのを機に、美術館の中に映画フィルムと関連資料の収集・保存・調査・研究を業務とするフィルムセンターが設置され、それまで美術館として使われてきた京橋の建物を改築して、その活動を開始してから十八年の歳月が経過した。

この間に収集された映画フィルムは、長篇劇映画約千四百作品を含めた日本映画が約六千五百作品、外国映画が約五百作品となっている。これらのフィルムは、京橋から約五十キロメートル離れた神奈川県相模原市に昨年春竣工したフィルムセンター相模原分館に収蔵されている。この相模原分館は、一万五千平方メートルの緑の多い敷地内に建設された世界でもトップ・クラスの設備を備えた本格的なフィルム保存施設で、地下二層に作られ

た約三千平方メートルの保存庫は、二千フィート巻きの三十五ミリ・フィルムを約十一万五千巻（長篇劇映画に換算して約二万一千作品）を収納できる。保存庫には、映像文化財としての映画フィルムの長期保存に不可欠の条件である年間を通じての恒温恒湿を保つ機能が組みこまれており、室温十五度、湿度五〇％に設定された地下一階の保存室にはモノクロ・フィルム、室温五度、湿度四〇％に設定された地下二階の保存室には、カラーの褪色防止には低温が好ましいとされているカラー・フィルムと使用頻度の少ないネガ・フィルムが保存されている。

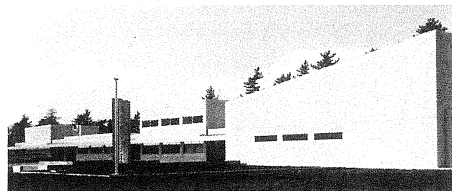
フィルムセンターでは、これらの貴重な所蔵映画フィルムを大切に保存すると共に、その活用の一つとして、これらの映画フィルムを使って、監督別、国別、テーマ別等の企画上映を年間六、七番組構成し、映画研究者、愛好家の方に公開上映している。これまでに製作された数多くの日本映画や外国映画の中

から優れた作品を様々な角度から採りあげて特集番組を構成し、繰り返し上映することによって、映画芸術的に優れた作品を鑑賞できる機会を一回でも多く提供し、優れた映画を愛好する良き映画観客が一人でも多くなることを願っている。

そのほか、映画製作関係者が新作を作るに当たっての参考として、あるいは映画研究者が映画についての論文を執筆するに際して再確認の意味で、過去の作品を見直したいとの申し出があった時、希望される所蔵作品の特別試写の便宜も計っている。この面では、外国の日本映画研究者が、フィルムセンターでなければ見ることができない日本映画の試写を希望して来日される方が多くなったのは、ここ数年の新しい現象である。また、わが国でこれまでに出版された映画図書の約九割にあたる約三千五百冊の映画図書を備えた図書室も、映画についての調査・研究される方に利用していただいている。

今後の展望

前述の特集上映は、映画史上の秀作を中心に構成されており、それらの作品はフィルムセンター以外では鑑賞できる機会の殆どないものが多いだけに、この特集上映の鑑賞を希望する人の数は着実に増加していた。その上映は、これまでは毎日替りて休館日を除いた月曜から金曜まで週日の午後三時と六時十五分の二回、京橋の映画ホールで行われてきた



東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館全景

が、小津や黒沢監督作品あるいは一九三〇年代のフランス映画の名作などが上映された時には、上映開始一時間前にすでに満員になってしまったように、知名度の高い映画が上映されると、上映開始前に入場締切になることが屢々で、折角、名作の鑑賞をと意気こんでこられた大勢の熱心な映画愛好家の方が入場できない事態に追いこまれる度に、映画ホールがもう少し大きければと考えさせられたものであった。しかも、誠に残念なことに、去る五十九年九月に発生した火災事故で、京橋の映画ホールが使えなくなったので、特集番組の上映会場を竹橋の美術館本館の講堂に移して、美術館開館中の毎週末の土・日曜の午後二番組しか上映できないという極めて変則的な事態にたまたまたっている。だが、数年来の宿願であったフィルムセンターとしての機能を存分に発揮できる新しい建物の建設がようやく認められ、昭和六十二年度予算に基づき設計が計上されたのは誠に喜ばしいことである。六十三年度の実施設計を経て、六十五年度末には新しいフィルムセンターが完成することになっている。

この新しい建物には、約三百五十名収容の映画大ホールと約百五十名収容の映画小ホールとが組みこまれることになっている。知名度が高く大勢の観客が集まる作品は大ホールで上映し、観客数はそう多くないが、フィルムセンターでなければ鑑賞することができない作品、つまり、芸術的な意欲作品、前衛的な実験的映画、学術的に貴重な記録映画あるいはわが国の一般映画館では上映されることの極めて少ない国々の知られざる優秀作品の特集上映などは小ホールで上映することを計画している。このように、大小二つの映画ホールを使い分けて、フィルム・ライブラリーならではの上映方式は、フィルムセンターと同種の機関でも世界のトップ・クラスにあるロンドンのブリティッシュ・フィルム・インスティテュートの国立映画劇場、パリのシネマテーク・フランスーズやニューヨークの近代美術館映画部の映画ホールですで行われている。好評を博しているところである。

さらに、現在では様々な制約から極く一部の方の求めに限定せざるをえない特別試写をより多くの方に利用していただけるよう、ビデオ・ブースを数室設置し、映画を研究される方が鑑賞を希望されることが多いと思われる映画史上の代表作をビデオで鑑賞できるようにしたいと考えている。そのほか、目下予算の関係で和書に集中せざるをえない映画図書の収集も、その枠を拡げて外国の映画図書や映画雑誌をより充実させ、文献による外国

映画についての調査・研究の便宜を計ることも必要であり、研究員を増やして研究部門を強化し、研究員が調査・研究した成果は、コンピュータに入力し、映画についての情報検索をより効果的にしたいとも考えている。また、前述したように、最近では諸外国の映画研究者による日本映画についての研究が盛んになってきているので、フィルムセンターにそういった外国の日本映画研究者を受け入れ、日本映画について充分な調査・研究をしていただくフェローシップの制度も是非導入していただきたいという関係各方面からの要望にも応えることができればと願っている。

昨年春完成した相模原分館をフィルム・アーカイヴとして、内外の映画フィルムの収集・整理・保存活動をより充実させていく一方で、そこに収蔵された数多くの映画フィルムの中から選択して様々な興味ある特集番組を構成し、それを京橋に出来る新しい建物の中に作られる大小二つの映画ホールで上映すると共に、図書室や情報部門をより充実させ利用者の便に供するならば、フィルムセンターは、映像の世代に育った若い人たちに映画の魅力を再発見する機会を与えうると同時に映画を研究しようとする人たちのメッカとなるであろうし、また、そうありたいと願っている。

編集後記

今月の特集は、近代の大衆娯楽の一つとして広く親しまれている映画を取り上げました。

文化庁でも「映画芸術の振興に関する調査研究」を行っておりますが、映画振興を期し、総合芸術と言われる映画の過去と未来をご専門の方々に語っていただきました。私も若いころは、授業をさぼって映画館通いをしたもので、あの感激と興奮は青春のよき思い出となっており、映画に寄せる思いは少なからずです。

「ぶんかブナカ」では、六月に英国等を訪問された大崎長官に「英国の芸術・文化の支援体制について」一回目の報告をいただきました。

九月の訪れとともに芸術の秋に向けて芸術・文化行事と美術館、博物館の特別展が開幕します。芸術を鑑賞し、各種行事に参加して、夏の疲れを癒してください。

(K)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 きょうせい 営業課
TEL(03)2681-241(代表)

「文化庁月報」九月号

(通巻第三二八号)

昭和62年9月25日印刷・発行

編集 文化庁

〒100東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

発行所 株式会社 きょうせい

本社 千代田区東部中央区銀座7丁目4番12号

営業所 千代田区東部新富区西五軒町52番地

電話(03)2681-241(代表)

振替口座 東京 九一六一番

印刷所 協行政学会印刷所

定価 一八〇円(送料四五百円)
年間購読料 二、一六〇円(送料共)